

玉川雄太 (たまがわ・ゆうた)

帯広畜産大 OL/DL 3年

チームは1勝1分け3敗で5位に終わった昨季だが、175センチ、90キロの鍛え抜かれた体でスクリメージラインを荒らし回った。1年生からOL、DL兼任で全試合に出場し、2年生の昨季はDEとしてリーグ2位タイの3QBサックを決めた。優勝した北大との対戦でも、サックにはカウントされなかったものの、北大の最初の攻撃シリーズで相手QBをパスからスクランブルランに追い込み、3ヤードのロスタックルで仕留めた。これで1年生QBの動揺を誘い、次の攻撃で味方のパスインターセプトをもぎとった。「相手ラインのブロックで倒されたが、すぐに立ち上がってラッシュした」と会心のプレーを今も忘れない。



「北海道にあこがれ、動物が好きだったから」と広島・尾道北高から帯広畜産大へ。高校までは野球部だったが、新入生歓迎会でアメフト部に誘われ、「激しくぶつかりあうのが格好良く、おもしろそうだ」と入部を決めた。野球で鍛えた足腰と、4番打者を務めたパワーで、1年生から出番をもぎ取った。「パスの時は思い切りラッシュする。ランの時はギャップをつぶし、外へのプレーでは必ずタックラーになる」とDEのセオリーを忠実にこなすのが信条だ。上腕と足腰をさらに強化して先発に定着した昨季は「先輩に負けないタックルができるようになった」と大きな自信も身につけた。

新型コロナウイルス対策で、大学から課外活動が解禁されたのが8月17日。練習でコンタクトを再開できたのが10月1日になった帯広畜産大。秋季リーグの準備が間に合わずに10月4日の北海道大戦は無念の棄権となった。Aブロックのリーグ戦は11月1日の札幌学院大戦のみになったが「去年よりも5キロ増え、パワーアップできた。アンダーソン選手をがっちり止めたい。QBサックも決めたい」と意気込む。そして「来年につなげるために、自分のプレーでチームを盛り上げたい」と力を込めた。

【プロフィール】

1999年8月6日、広島生まれ。畜産学部畜産学科。1年生の時に実習で、牛の乳搾りや豚の世話を初めて体験した。目標は帯広畜産大カウボーイズの先輩たち。「プレーだけでなくアメフトに対する意識すべてがお手本」という。好きな言葉は「自信」。